

ANIMAL CENTER NEWS

No. 9

目次

◆動物センターより注意事項

◆エックス線照射装置新規導入と旧装置の移設について

◆ゲノム編集動物及び細胞の作製について

◆第4回 中四国動物実験施設連絡協議会に参加してきました

◆平成30年度大学院博士課程選択実習を実施しました

◆動物実験センター機器アンケート調査結果

◆Helicobacter hepaticus 終結宣言

◆微生物モニター検査の結果



(写真1) カワウ

◆動物センターより注意事項

日頃から十分注意されていることと存じますが、下記事項の厳守をよろしくお願い致します。

- 動物センターへの機器の持ち込みは、必ずセンター職員の許可を得てから持ち込むようにお願いします。
- 各階の出口に取り付けている非常時ロック解除のカバーの破損が増えています。注意をお願いします。
もし破損したときはセンター職員に届け出て下さい。



(写真 2) 非常時ロック解除カバー

◆エックス線照射装置新規導入と旧装置の移設について

新しい X 線照射装置 (AB-160, アクロバイオ株式会社) を動物センター3 階 327 室に導入し、1 月 10、11 日に利用実績のある利用者の皆様には使用方法に関する説明会を開催いたしました。これまで設置していた旧装置は 2 階 246 室に移設しましたので、一般 SPF エリアで動物を飼育されている皆様も使用可能になりました。

◆ゲノム編集動物及び細胞の作成について

昨年 12 月 26 日に徳島大学発のベンチャー企業であるセツロテックの竹本先生、沢津橋先生をお招きし、ゲノム編集を用いた遺伝子改変マウス及び培養細胞の作製サービスについてご紹介していただきました。株式会社セツロテック (<https://www.setsurotech.com/>)
今後、セツロテックへ注文する際には動物実験部門を介していただくと、面倒な手続きが簡略化できスムーズにご依頼いただけます。

こんな遺伝子改変マウスや細胞が欲しい等ご要望がございましたら、お気軽に動物実験部門へご相談ください。

◆第4回中四国動物実験施設連絡協議会に参加してきました

平成30年11月20日、香川大学で行われた第4回中四国動物実験施設連絡協議会に参加してきました。本会では「利用者が負担する経費について」という議題で、中四国地区の各動物実験施設の現状報告と今後の課題について意見交換を行いました。

現状においては、当センターの利用料は他施設と比較するとリーズナブルであることが分かりました。今後は消費税の増税や交付される施設運営費の減額が考えられるため、どのように資金を獲得し、研究のニーズに合わせた機器を導入していくかが課題になっています。

このような課題を解決し、現状維持ではなくさらに研究しやすい環境づくりに教職員一同尽力いたします。利用者の皆様にもいろいろとお願いすることがあると思いますが、その折はご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

◆平成30年度大学院博士課程選択実習を実施しました

平成30年11月9日、下記内容の平成30年度大学院博士課程選択実習を実施しました。3名の大学院生が参加し、実際に動物を取り扱いながら、日常の動物実験作業に必要な不可欠な手技を習得して頂きました。

実習タイトル：動物実験の基礎

指導教員：今井祐記、佐伯法学

所属：ADRES 動物実験部門／PROS 病態生理解析部門

実施時期：平成30年11月9日（金） 15:00～17:00

場所：動物実験センター2階 222 処置室

対象動物：マウス・ラット

内容：保定法、投与法（腹腔内、経口）、採血法（心臓、後大静脈、尾静脈）、麻酔法（注射および吸入麻酔器を使った麻酔）、安楽死法、解剖・サンプリング法（骨、脳）など

◆動物実験センター機器アンケート調査結果

【質問1】新規購入を希望する機器はございますか？

高解像度のMRI装置、in vivo用マイクロCT装置、小動物用SPECT装置
動物実験用レーザー血流計、プローブ型共焦点レーザーマイクロスコープ
Multi Display Devices MDD4+Corneometer CM825+Mexameter MX18

【質問2】更新したい機器のご希望はございますか？（希望の多い順）

in vivo 発光イメージングシステム、小動物用MRIシステム、
自動行動追跡・解析ビデオトラッキング、手術用顕微鏡

【質問3】センター内に不足していると思われるスペースはございますか？

手術室用の処置室

アンケートへのご協力ありがとうございました。

みなさまのご要望にお応えできるよう努力していきたいと思っております。

◆Helicobacter hepaticus 汚染事故の終結

平成29年11月にHelicobacter hepaticusの感染が確認され、飼育室の閉鎖、動物の移動、隔離、殺処分等の対策を行ってまいりましたが、このたび感染したマウスは全ていなくなりました。飼育室も全て復旧することが出来ました、感染拡大を最小限に食い止める事ができました。皆様のご協力に感謝します。

◆微生物モニター検査の結果

センター各飼育室のモニター動物を実験動物中央研究所に、微生物検査を依頼した結果、全ての項目で陰性でした。検査報告書は動物実験部門のホームページでご確認下さい。

(<https://www.adres.ehime-u.ac.jp/bumon/04/guide/result.html>)